① 自由通路の課題解決の方向性

連絡通路の現況課題、留意点

○サービスレベルの向上

・連絡通路の幅員が狭く、非常に混雑している。
・連絡通路内で改札出入りの旅客動線等を処理しているため、通路の有効幅員を狭め、一層サービス水準を低くしている。
・上記に伴い、東西地区間の連絡性、回遊性の低下を招いている。

○歩行者動線の錯綜

・連絡通路が屈曲しているとともに、JR 線・東急線の乗り換えを含む旅客、一般通行者、駅ビル買い物客の動線が重なり交通が錯綜している。

○空間の明快性

・連絡通路正面に商業施設が配置され、駅と街との繋がりが分かり難い空間構成となっている。

○将来需要・動向への対応

・現況課題に加え、更なる国際化に伴う来街者の増加、周辺教育機関の規模拡大による学生の増加など、新たな状況への対応が求められている。
・駅周辺において自転車利用者の東西横断が難しい。
・駅南側では蒲蒲線整備に向けた検討が進められている。

課題解決の方向性

【課題解決の方向性①】

自由通路の新設・改修可能性の検討により、東西地区間の連絡性・回遊性の強化を図る。

・駅北側自由通路（線路上空）新設可能性の検討
・駅連絡通路改修可能性の検討
・駅南側自由通路（線路上空、または地下）新設可能性の検討、など

【課題解決の方向性②】

連絡通路の屈曲改善や新たな改札の設置可能性の検討により、現連絡通路の利便性の向上、交通の分散化・整流化を図る。

・屈曲改善による連絡通路出入口の視認性向上可能性の検討
・駅北口改札設置による交通の分散化・整流化の可能性の検討、など

【課題解決の方向性③】

駅舎・駅ビルの建て替えに併せ、まちとの繋がりを意識した正面性のある自由通路への改修可能性を検討する。

・現連絡通路の改修と併せ、まちとの繋がりが分かりやすい縦軸空間の設置、など

【課題解決の方向性④】

新たな課題への対応や自転車利用者への配慮、蒲蒲線整備計画との整合を図り、蒲田駅を中心とする地区のまちづくりの牽引役を担う自由通路の整備検討を進める。

・今後のまちづくり推進の視点を踏まえた、駅北側、駅中央、駅南側での自由通路整備可能性の検討
・自転車利用者が東西横断できる通路の検討、など